第１回　陸前高田市新しいまちづくり市民会議

開催日時：H25.10.3（木）18：30～20：30

開催場所：陸前高田市庁舎４号棟第４会議室

（1）市民会議の目標

「市民が望む、将来的な陸前高田のまちの姿を具体化し、整理する」

第１回の目標とゴール

【目　標】市民会議の進め方の共有と一人ひとりのまちづくりへの想いの共有

【ゴール】自分以外の参加者の想いを受け止める。

次回会議へ期待感が高まる。

（2）主な検討内容

産業・観光
歴史・文化資源の活用 ◎高田にある素晴らしい歴史を、観光業と抱合せればどうか。交流人口の増大を目指すためには必要なこと。 ◎海、山、川など、昔からある資源でまちづくりを！ ◎歴史、観光、高田の資源を利用したハイテク産業を絡ませたまちづくりを！ ◎金や水晶を利用した活気あるまちづくりへ。 ◎ケンカ七夕や郷土芸能を合わせた観光産業 ◎一本松 ※高田を知るきっかけ ※保存までの人間ドラマ ◎資源化されていないものの掘り起し ◎地域の魅力（人・ごはん・自然が良い）を伝えていく。 ◎防災メモリアル公園でのイベント ◎高田に今あるもののブランド化 スポーツ振興 ◎2020 年の東京オリンピックと何か絡ませることで、交流人口の増大を目指せないか。 ◎観光より、スポーツに特化したまち ※パラリンピックを含め高田に来れば誰でもスポーツ出来るまち 体験型 ◎もっと観光できる場所、もっと体験できる場所を増やす。（クルーザー体験、スキューバ体験、農業収穫体験） ◎防災関連施設を建設し、高田に来た方に防災に関する体験をしてもらう。 ◎地域住民との交流 ◎交流人口を増やしたい。今がチャンス。ボランティアと地域の人の交流を。そこから若者の定住に繋げたい。 インターネット活用 ◎ネット通販〝高田発〟 人材育成・雇用 ◎働き手・人手不足 ◎今ある産業を次世代へ。まち全体として取り組みたい。若者がやりたくなるような仕事にしていくためのイメージアップが必要。 ◎まちづくりには若い人がいないと。そのためにも働く場の確保を。

◎子どもたちの将来の職業の確保

商　業
◎定期的な市場の復活(気持ちが集まる場所・居心地がいい場所)
◎コンパクトシティ
　※年配の方が、自分達でも買い物できるように

一次産業の活性化
◎第一次産業の活性化

その他
◎まちの再生か、人口の増加か
◎回遊できるまち
◎外から人を呼び込むためには
◎特出した産業は無い。逆に、何でもあるということ。
◎NPO にももっとギラギラしてほしい。
◎震災後、関わってくれた人たちへの恩返し
◎リピーターを増やす
◎企業誘致
◎宿泊施設の充実
◎若者の起業を促す基盤作り/サポート

医療・福祉

ノーマライゼーションという言葉の要らないまちへ
◎障がいのある人にもやさしいまち
◎高齢者との共生。まち全体での見守り、声掛けが大事。
◎ノーマライゼーションという言葉の要らないまち（すべての環境においてバリアフリーとなるように）

ケア・サービス
◎前向きになれない方への支援
◎介護問題、ＤＶ，孤独死などの相談できる組織やセンターを
◎ささいな相談も、気兼ねなく受けられる場所もあればいい
◎心のケア。4～5 年後のこれからが特に

バリアフリー
◎外に出たくても出られない
　（交通の便が悪い・経済的負担・家族への遠慮・バリアフリーの観点）

病院の確保
◎高田病院のもとの規模での再建。
◎病院がないところに病院を。診療所でもいいからあるといい。

地域コミュニティ・防災

交流人口を増やす
◎交流人口を増やし、高田に興味を持ってもらい、そこから定住人口を増やすことにつなげていければどうか
◎他県から定住される方に、高田を知ってもらうツアーを開催

地域住民の主体性
◎地域住民がもっと主体となるように

防災
◎防災関連の研究施設の誘致。
◎次世代に誇れる復興都市を目指す
◎防災重視のまち。
◎一本松付近の低地にも高台が必要。高齢者など、逃げられない。
◎二度と繰り返さないために防災を伝えたい。今見に来て、知ってほしい。
◎防災教育の取組を広げたい。（逃げ地図）
◎高齢者を守れる防災。

コミュニティの在り方
◎既存・新規コミュニティの重要性
◎地域の情報を若い世代へ受け継ぎ、世代間のしがらみのないコミュニティを形成していく
◎郷土芸能で、地域コミュニティを活性していく
◎「自分たちがいいと思うもの」を楽しむ(祭など)
◎丘に家があった頃の安全なまち。
◎元の場所、コミュニティに戻りたい高齢者もいる。
◎七夕を含む“おまつり”を残したい。コミュニティには必要。
◎まちづくりの前に、命を守る、財産を守る事。それができるまちづくりを。
◎仮設で新しくできたコミュニティの保持

教育・子育て

遊び場
◎子どもが遊べる場所が少ない。子供が元気だと大人もやる気になる。

防災教育
◎防災を伝えたいと子ども達も思っている。
◎誰もが夢を持って暮らせるまちへ

キャリア教育
◎社会の視野を広げる教育をし、若い世代の職業選択の幅を持たせてあげたい

子育て
◎ネット環境整備など、在宅ワークを増やすことにより、働きながらも子育てができるように
◎もの怖じしない、強い子ども達を育てていこう
◎嫌々このまちにいてもらうのではなく、見聞を広めてきてもいいので、また町に戻って来たいと思わせるようなまちづくりへ
◎子どもたちが夢を持ち、魅力を感じられるまちづくり

スポーツ教育
◎スポーツに特化したまち
※パラリンピック含め誰でもスポーツ出来るまち
◎低地の有効活用でサッカーグラウンドを作る。子供の遊び場にもなる。
◎グラウンドにオリンピック・パラリンピック・岩手国体誘致。高田からプロ選手を。

その他の意見
市民行政の連携 ◎行政・市民の良い連携。 ◎市民(民間)と行政が同じビジョンを持つ 若者育成・人材教育 ◎まちづくりの基盤となる人材教育もすべき ◎若者の起業を促す基盤作り/サポート ＩＴ化 ◎IT 化(楽しむために) まちづくり ◎町の姿が昔の原風景に戻ったことにより、町の魅力がたくさん見えてきた ◎楽しくなければまちづくりじゃない！ ◎普通のまちづくりの観点から、日本全国との競争 ◎チャンスを逃さないまちづくり ◎〝まちづくり〟は漠然としている ◎「行くべ！」と言える町 ◎市民が「陸前高田市」の再発見 ◎人と人とのつながりの保持 ◎種をまいて芽が出たら、花が咲くまでちゃんとやらないと。 ◎陸前高田の「よさ」「強み」「売り」「良いところ」を活かす インフラ整備 ◎交通の充実

(3)【参考：主な論点（掘り下げたい事項）】

◆交流人口　⇒　今来ている人達を大切にした上で人口交流の拡大。そしてまた来てもらうという流れを作りたい

◆地域力　⇒　まちの良さ、地域の魅力を市民が知る。子供たちの教育にもつなげる。

「おもてなし」ではなく、「普段通り」が既に魅力。ただし、「ビジネス」と「行事的」な受け入れの考え方の区別も必要。

◆仕組み作り⇒　市民と行政が同じビジョンを持った上で、市民力アップだけでなく行政の力も借りたい。一体感の醸成　⇒　地域間の一体感、行政、市民の一体感

◆産業の活性化　⇒　　一次産業：米崎りんごやトマトのほか、たかたのゆめ等知ってもらいながら宣伝　⇒　商業：コンパクトシティ

◆歴史・文化資源の活用

◆若者育成・人材教育　⇒　キャリア教育、起業

◆スポーツ振興

（4）参加者名簿　　各グループ議事録参照

【第１グループ】

第１回　陸前高田市新しいまちづくり市民会議

開催日時：H25.10.3（木）

開催場所：陸前高田市庁舎４号棟第４会議室

【第１グループ】

（1）参加者

第１グループ参加者名簿

氏名	所属	備考
伊藤　英	ＳＡＶＥ　ＴＡＫＡＴＡ	
伊藤　昌子	おやこの広場　きらりんキッズ	
村上　清	Ａｉｄ　ＴＡＫＡＴＡ	
紺野　文彰	通訳ガイド	
武蔵野　美和		
熊谷　耕太郎	再生の里ヤルキタウン	
小野寺　浩樹	陸前高田まちづくり協働センター	グループ進行
吉田　真	いちのせき市民活動センター	グループ記録

（2）第１回の目標とゴール

【目　標】市民会議の進め方の共有と一人ひとりのまちづくりへの想いの共有

【ゴール】自分以外の参加者の想いを受け止める。

次回会議へ期待感が高まる。

（3）検討概要

○市民会議の進め方について共有

・グループは固定しないで、またくじ引きなどして決めていけばどうか？様々な方の意見が聞きたいため検討していただきたい。

○参加者が描いている新しいまちづくりのイメージ

【産業・観光】

・インターネットを市内に普及していきたい。（情報を得るため、情報を発信するため）

・在宅ワークの普及ともなる（女性が家に居ながら子育てができる、雇用も生まれる）

・外部との交流を生み出すためにも、高田は発信の拠点にならないといけないと思う

・陸前高田を観光地として活かしていってはどうか？

・高田には素晴らしい歴史がたくさんある。→他の地域に誇れる歴史がある

→歴史も高田の資源なので活用できないか？

・自然の中には多くの活用できる資源が沢山ある**。海、山、川それらもうまく活用してきたい**。またその活用するための**知恵を出す人材も立派な資源**だと思う。

・高田は世界に誇れる美しい町だが、現状として美しい町と言えないところがある

→建設車両の増加（粉塵や排気ガス等でお世辞にもきれいとは言えない）
→現状の高田を知って欲しい（観光業と関連させながら）

・**歴史、観光、高田にある資源を有効的に使用したハイテク産業を混ぜていけば、まちの経済は発展していくのではないだろうか**（そのためにもインターネット整備などの情報発信力は必要だと思う）
・アメリカで講演会をした時に、アメリカ大陸が発見の経緯には、陸前高田で採れた金が関係あると言ってきたのだが（マルコポーロが書いた東方見聞録に書かれている黄金の国ジパングとは平泉のことで、平泉の金は高田を含める気仙地方の金が使われたので、間接的に陸前高田の金がアメリカ大陸発見につながったことを言ったらしい）そのくらい、世界に誇れるまちだということを、他の地域へも、地元住民へも知ってもらいたい。
・**金や水晶がたくさん取れれば、活気ある楽しいまちになるのでは**
・市内の黄金文化などの過去の歴史を、まちづくりに活かしていきたい。
・**2020 年の東京オリンピックと何か抱き合わせはできないだろうか？**
→交流人口を増やすことにもつながるのでは
→高田の経済効果ＵＰにもつながるのでは
・外部から支援も受けながら、今後 3 年以内に年間の交流人口を 10 万人にすることはできないか？高田松原の、震災前の年間の交流人口は 30 万人を超えていた
・**高田に来て、高田の良さを知ってもらい、そのまま定住するような流れがあるといい**
→交流人口を増やすことが、定住人口を増やすことにもつながる
→高田の人口 10 万人も夢ではない
・宿泊施設を増やさなければ、交流人口もなかなか増えない
・交流人口が増えても、高田に利益となるものを落としてもらわなければ意味はない
・もっと観光する場所、見学する場所が必要ではないか（クルーザー乗船体験、スキューバ体験、果物狩りなどなど）
・県外の学生が高田を訪れ、高田の歴史を調べ、その調査内容を発信していく事業を考えている。古民家を改装して長期滞在できるように
・高田に興味を持ってもらい、若い世代を呼び込むことは必要　→定住人口の促進になる
・歴史（黄金文化、郷土芸能、けんか七夕）から観光へとつなげていけないだろうか
・歴史探訪ツアーを県外のみならず、地域住民に関しても開催して、高田をもっと知ってもらいたい。
・**交流人口を増やすために、防災などに関する研究施設を誘致したらどうか**

【医療・福祉】
・復興へ前向きになれる方はいいが、**前向きになれない方を引き出せる組織や関連施設が必要**ではないか。
・**高齢者の介護、ＤＶ被害、孤独死の防止など、一カ所ですべての相談業務を受けることが出来る総合的なセンター**などがあればいいかも
・よろずや的な簡易な相談も受けられる所が必要なのではないか

【地域コミュニティ・防災】
・国全体の財政を考えたまちづくりを！（防潮堤などの建設費用も多くかかるので）
・**次世代に誇れる復興都市**にしていきたい。高田が復興都市のモデルとなり、日本へ、世界へ、発信していければと思っている。

・子ども、大人、高齢者も一緒に夢を持って住めるまちにしていきたい。みんなが集うことで様々なものが生まれるのでは？
・高田の昔からある地域コミュニティを大事にしていきたい。
・ボランティア団体から地域コミュニティ団体へ（地域の主体を変えていく）
・地域の年配の方が持っている情報を、若い世代へ受け継いでいくべきだ。
・高田と交流のある団体に関しては、引き続き交流はおこなっていくべきだ
・20 代～40 代の方が、自由に動けるようなまちにしていきたい。50 代～80 代のような上の世代とも、しがらみなく交流できるようになればいい
・世代を超えて、つながりを持っていきたい（世代間コミュニケーション）
→確固な世代間のつながり（幹）ができれば、枝分かれで同世代につなげていける
・地域のつながりを大事にしていきたい、そのためにも郷土芸能は重要ではないか
→地域のお祭りや盆踊りなどで郷土芸能などをすれば、地域住民も集まり、交流人口も増えるのでは
・他県から高田に定住してきた人に、高田を知ってもらうツアーを開催したらどうか
（昔は実際にやっていたらしいが、今はどうなのか）
・防災関連の施設を建設し、実際に逃げる体験や、津波の強さを知る体験なども混ぜ込めば、観光場所ともなり、交流人口も増やせる。

【子ども・教育】
・社会の視野を広げる教育をおこない、若い世代の職業選択の幅を持たせてあげたい。
・小中高で職業体験などはおこなっているが、その職業でどう地元で生活をやっていけるのかといったところまで教えてあげるといいのではないか
・もの怖じしない、強い子ども達を育てていきたい
・子ども達へは、他の地域で生活するなり、学習するなりでもいいので、自らまた町に戻って来たいと思えるような町にしていきたい。
【その他】
・町の姿が昔の原風景に戻ったことにより、町の魅力がたくさん見えてきた。
・今ある自然も残していきたい。
・楽しくなければまちづくりじゃない！
・高田だけがよくなろうと思うことはＮＧ、国全体で考えてみることも重要
・ノーマライゼーションという言葉の要らないまち（すべての環境においてバリアフリーとなるように）

（4）検討経過

産業・観光	◎高田にある素晴らしい歴史を、観光業と抱合せればどうか。交流人口の増大を目指すためには必要なこと。 ◎海、山、川など、昔からある資源でまちづくりを！ ◎歴史、観光、高田の資源を利用したハイテク産業を絡ませたまちづくりを！ ◎2020 年の東京オリンピックと何か絡ませることで、交流人口の増大を目指せないか。 ◎金や水晶を利用した活気あるまちづくりへ。 ◎もっと観光できる場所、もっと体験できる場所を増やす。（クルーザー体験、スキューバ体験、農業収穫体験） ◎ケンカ七夕や郷土芸能を合わせた観光産業 ◎防災関連施設を建設し、高田に来た方に防災に関する体験をしてもらう。
医療・福祉	◎ノーマライゼーションという言葉の要らないまちへ ◎前向きになれない方への支援 ◎介護問題、ＤＶ，孤独死などの相談できる組織やセンターを ◎ささいな相談も、気兼ねなく受けられる場所もあればいい
地域コミュニティ・防災	◎交流人口を増やし、高田に興味を持ってもらい、そこから定住人口を増やすことにつなげていければどうか ◎防災関連の研究施設の誘致。 ◎次世代に誇れる復興都市を目指す ◎既存・新規コミュニティの重要性 ◎地域住民がもっと主体となるように ◎地域の情報を若い世代へ受け継いでいき、世代間のしがらみのないコミュニティを形成していく ◎郷土芸能で、地域コミュニティを活性していく ◎他県から定住される方に、高田を知ってもらうツアーを開催
教育・子育て	◎誰もが夢を持って暮らせるまちへ ◎社会の視野を広げる教育し、若い世代の職業選択の幅を持たせてあげたい ◎ネット環境を整備し、在宅ワークを増やすことにより、働きながらも子育てができるようになれば ◎もの怖じしない、強い子ども達を育てていこう ◎嫌々このまちにいてもらうのではなく、見聞を広めてきてもいいので、また町に戻って来たいと思わせるようなまちづくりへ
その他	◎まちづくりの基盤となる人材教育もすべき ◎町の姿が昔の原風景に戻ったことにより、町の魅力がたくさん見えてきた ◎楽しくなければまちづくりじゃない！ ◎ノーマライゼーションという言葉の要らないまち（すべての環境においてバリアフリーとなるように）

新しいまちづくりのイメージ

次世代に誇れる後際モデル都市

誇りを持つ

高田の資源を残す 原風景を残す

自然を残しつつ 若い人がいるまち

子どもたちが夢をもてるまち 職業

子どもも大人・高い者が一緒に住めるまち

コミュニティ：品があったからのりこえた。

高田だけ良くなろう

これはNG

国全体が…

バトンタッチ

サークル

情報の共有

二人三脚、一緒にやる

観行 歴史 について年中議論したい NPOのフィードアウト

将来、まちを存続させるために 産業

交流人口 つながる

2014.2015 1年間10万人：1人10人つれてくる 発展する

世界に誇れるまち

今は美しくない。

経験したことを伝える → 良くなるプロセス

ノーマライゼーションという言葉が必要でないまち

生活 観光 全ての環境において バリアフリー

地元の人が資源を知らない

ジャパンダー 産前高田

ストーリーを作る

歴史をどう活かす？

ST.

透明化 歴史を活かして受入れをしよう

現在、プロジェクト進行中

20-40代が動ける環境：世代間のコミュニケーションがとれていない…… たて軸・よこ軸

交流人口 1年間10万人 2015 定住人口 10万人 2020

目指すものがあって すべきこと。

交流人口は今も増えている

でも、通過型（震災前もそうだった）

着地型観光の視点。

定住人口を増やすために研究機関の設置を進める

ここにくる人たちは前向きな人たち。

人が来てこれる集まれる場所

たかいもない相談窓口 "よろず相談"

しがらみの規制緩和

仕事の選択の幅を広げたい

もの心じしないうどもを育てる。→ 可能性を感じられるうども

高田の人の役割

よそに行っても戻ってくる

【第２グループ】

第１回　陸前高田市新しいまちづくり市民会議

開催日時：H25.10.3（木）

開催場所：陸前高田市庁舎４号棟第４会議室

【第２グループ】

（1）参加者

第２グループ参加者名簿

氏名	所属	備考
三井　俊介	特定非営利活動法人 SET	
菅野　好子	自立支援協議会	
菅野　秀一郎	陸前高田商工会青年部	
太田　明成	飲食店経営	
永田　宗義	吉田燃料ガス事業	
金澤　忍	えぇ町作りたい	
黄川田　美和	陸前高田まちづくり協働センター	グループ進行
佐々木　牧恵	いちのせき市民活動センター	グループ記録

（2）第１回の目標とゴール

【目　標】市民会議の進め方の共有と一人ひとりのまちづくりへの想いの共有

【ゴール】自分以外の参加者の想いを受け止める。

次回会議へ期待感が高まる。

（3）検討概要

〇市民会議の進め方について共有

・グループは毎回変わるのか

→変わった方が良いかも。

・優先的に話す部分を決めるのか？　話した内容はどうなるのか？

→自分の活動に活かしたい。

→最終的には自分達の活動に活かして行く方向でいいが、それぞれの「こんなまちにしたい」という想いを聞いて、各分野の人に振り分ける。※出来る人に、出来る事を。

・市に提言

→「こういう事出来ないかな？」

・そもそもの目的は？

→資料に書いてある通り説明

・進め方

→それぞれの切り口を明確にした方が良いのではないか？

まとめるより発散しきる事。

※それぞれの切り口を１人ずつ話してもらい、出されたキーワード

事業主であり　市民である　労働　福祉　教育　医療　障害者支援の立場から
現場の視点　かつての実績と経験　外部者　若者　産業　観光　防災（消防団）
以上の、それぞれの立場で話をしていく。

〇参加者が描いている新しいまちづくりのイメージ
【産業・観光】
・商業地域にするためにかさ上げ事業をしているが「そこをどうするか」が、商工業者たちにとってのまちづくり
　→コンパクトシティ
　　市民が暮らす上で考え付くすべての物をまちに入れたい。
　※町　公園　B&G　七夕　事務所　スポーツ施設
　※高田に今あるNPOも、どこにあるのかわからない。
　※コンパクトシティ化した時に一つの施設にまとめるなどのアイディア
　※おばあちゃんたちがネットで買い物をするため、必要では？
　(孫たちに負担をかけない) 反コンパクトシティ
・それぞれの町(地域？)ごとで成り立つようにIT化が進んだ〝まち〟
・高田は気候的にもスポーツに適している
　→スポーツに特化したまち
　※パラリンピック含め高田に来れば誰でもスポーツ出来るまち
・観光地としていつまで続くのか疑問
　→市民はそもそも観光地の意識が無い
・一本松もレプリカにしてしまったから、一度見たら終わり
　※くちて行く姿もよかったはず　（一本松が朽ちるまで　ｖｓ　復興）
・広島から一本松を見に来た人もいた
　→初めて高田を知る〝きっかけ〟になった。
・産業集積地には人が住まなくてはいけない。
　→商売人だけの考えだけでは、ダメなのではないか。
　※ガラッと新しいものだけではなく、昔のソースを入れて行きたい。
・まちを再生するのか　または　人を増やしていくのか
　→考えていかなければいけない。
・高田＝合宿＝高田松原・体育館・オートキャンプ場
・一本松にはドラマがいっぱいある
　→保存に関する過程は、人間ドラマになる
・ソフト面…今あるものを
　どう活かすか
　→観光資源はいっぱいある。　広田→採れたての魚、手作り料理
　→資源化されていないものを掘り起こす
・働き手がいない、人がいない
　→場所はある！仕事はある！　しかし　募集をかけても来ない
・一本松は、導入としては最適
・観光＜スポーツ
　→その方が、交流人口を増やせる。

・「前の〝まち〟に戻す(自分たちの楽しい町)」と「外部から人を呼べるまち」は反する？
　→どうすればいいか？
　※ガラッと変えるしかない。でもその中に、昔のソースを残す。
【医療・福祉】
・ノーマライゼーション
　→今の高田の状態ならできる
・新しく外から来た人にも、誰にでも、「高田っていいな」と思ってもらう事
　→福祉の観点からも。
・まちづくり→自分も参画したい！
・自立支援協議会…障がいのある人たちの課題を吸い上げ、共有
　→行政へ提言・課題解決への支援
・商店街へ行くにも「足」が無い
　→交通の便が悪い・経済的負担・家族への遠慮
・人が集まる場所に出たいと思っても出られない
　→バリアフリーの観点
・障害のある人にもやさしいまち＝誰にでもやさしいまち
　→コンパクトシティの考え方なら実践できるのでは？
　　商店街のことだけではなく、市全体として、「回遊できるまち」へ。

【地域コミュニティ・防災】
・「自分たちがいいと思うもの」を楽しむ
　→けんか七夕(自分たちのためにやる！)
・パソコン教室
・ネット販売も〝高田発〟のものを出す
・定期的な市場の復活
　→気持ちが集まる場所、居心地がいい場所
・「良かった」と思っていたものを取り戻したい
　→これがないと、他の町に住んでいるみたい
【子ども・教育】

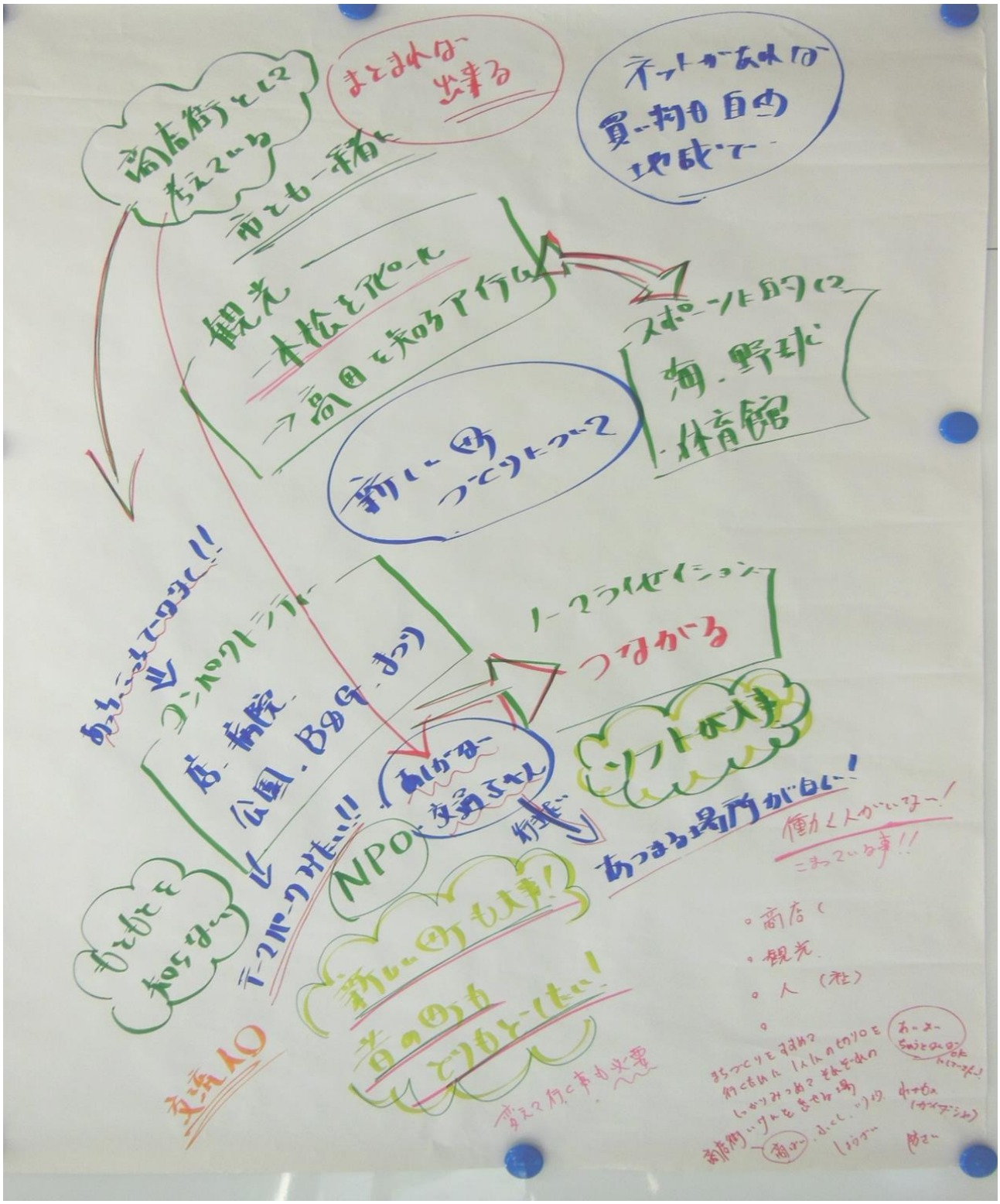
【その他】
・閉鎖的な中では無く、広く話したい。
・そろそろ落ち着いてきたので、普通のまちづくりの観点から
　→甘えていられない。日本全国と競争していかなければ。
・この２年間でいろいろなチャンスがあったはず
　→いろいろ逃して来たのではないか？　取り残されてしまわない様に。
・まちづくり＝人
　→新しく来た人にも、誰にでも「いいな」と思ってもらう
・まちのど真ん中に住んでいたため元々のまちのイメージしかない。
　→「それがいい」と思ってしまう。
・どんな町
　→漠然としたままでは目的が達成できない。

・高田＝〝まち〟
　→「〝まち〟さ行くべし！」
・昔の〝まち〟は楽しかった
　→昔の楽しかった〝まち〟を取り戻したい
・“まちづくり”は漠然としている。
・IT がもっと進むと、楽しいこともできる
　→会議、買い物　etc.
・「負(マイナス)」を取り除く＝欲求を満たす
　→コンパクトシティならできる？

（4）検討経過

産業・観光	◎一本松 　※高田を知るきっかけ 　※保存までの人間ドラマ ◎まちの再生か、人口の増加か ◎観光より、スポーツに特化したまち 　※パラリンピック含め高田に来れば誰でもスポーツ出来るまち ◎回遊できるまち ◎ネット通販〝高田発〟 ◎資源化されていないものの掘り起し ◎働き手・人手不足 ◎外から人を呼び込むためには
医療・福祉	◎障がいのある人にもやさしいまち ◎ノーマライゼーション ◎外に出たくても出られない 　（交通の便が悪い・経済的負担・家族への遠慮・バリアフリーの観点）
地域コミュニティ・防災	◎定期的な市場の復活(気持ちが集まる場所・居心地がいい場所) ◎コンパクトシティ 　※年配の方が、自分達でも買い物できるように ◎「自分たちがいいと思うもの」を楽しむ(祭など)
教育・子育て	◎スポーツに特化したまち ※パラリンピック含め誰でもスポーツ出来るまち

その他	◎普通のまちづくりの観点から、日本全国との競争 ◎チャンスを逃さないまちづくり ◎〝まちづくり〟は漠然としている ◎「行くべ！」と言える町 ◎IT 化(楽しむために)



〈進め方・市民意識の聞き方〉

Q グループは何の要素でつくるのか
・変わったものが良いかも

・そもそもの始まりとき「きょうのまちづくり」の観点
・サンプルがない
・日本全国と比較して比べられない

Q 最終的に話し合いを進めるのか？
誰にどんな答えはどうなるのか？
→ ・自分の活動に活かしたい
「なんか一番」では？

・情報量が入ってるようで入ってない。

・最終的に…は良いけど
それぞれが「こんな町にしたい」という
想いを聞いて、多方面の人に
ふりわけは（できる人にできる物を）

・まちを長生きするのが
人を増やすことなのか
} 考えていきたい

・"まちづくり" = 人
（市役所のせいにしないって思ってもらうこと）
新しい人が来たんにも。
（誰かでもいいんじゃないって思ってもらう）
（地元の観点）

・まちを盛上げたい！

この2年間でいろんなチャンスがあったけど、
いろいろ言ってきてるんじゃ!?
→ 取り組むことができてしまわないように

・まちのど真ん中にいたのでまちの
町のイメージしかなく、「外が良い」と思ってた

・どんな町… パワポにしたまとめは
目的が達成できないので。

・市に提言「こうしたらできないかな？」

・"まちづくり"はパワポにしてる

Q そもそもの目的は？
→ 答えはあるもので思いがあるか？

Q "まちづくり"でイメージするものは？

↳ ・商業地域にするために人口上昇
してるが、「そこをどうするか」が
商工業者たちにとっての"まちづくり"
→ コンパクトシティ

・商業集積地には人が住まなき
いけないだろう
↳ 商業人だけの活動じゃダメだ？
だって新しいものじゃなく
昔のソースも入れていかなきゃ。

・昔の方 → それぞれのカンロを明確に
した方が良いのではないか？

・まとめるより発散しきること

① 太田さん … 事業者 市民
② 金澤さん … 市民 外部
（都会といいなと）
医療
③ 菅野さん … 商工会議所
↳ 立ち場から
④ 小田さん … 現場の視点、実績、移動
カコ
⑤ 二本さん … 外部者 若者 事業者
（仕事でつくること）
⑥ 森さん … 事業者（観光）
防災（消防団）

それぞれの立ち場を合わせてしまいて

2グループ

〈新しいまちづくり〉

・コンパクトシティ
市民が暮らしやすい
合理的な町に入れたい
（新しいものじゃない
ものもあるんだが
どこにあるんだ？
→ 「何の町」
「まち」
マニュ
ゼッション
自分の意思の状態でできる

・住みやすいだけじゃなく、楽しめるまちにしたい

・高田は気候的にもスポーツに向いてる
スポーツに特化したまち
観光地としていつまで続くかポイント
（高田はその名残あり）
一本松もレンタルにしちゃったから（回収しないから）
（ムラでいくと変な見かたしたが）
（まちのどうぞ）
（ゴルフ）

・自分たちが良いと思ったのを選べる
→ チャンカセ（自分たちのために！）

・自立支援協議会
障がいのある人たちの課題を向上が先行
→ フクリ政の強化
課題解決人の支援

・商店街に行くにも足がない
交通の便悪い
経済的負担
家族の負担

・集まる場所
出たいと思っても出られない
バリアフリーの観点。
障がいのある人にもやさしい町
= 誰にでもやさしい町

・コンパクトシティ!?
コンパクトシティの考え方から実現できるんじゃ？
ディメンション
（高田どうするまち）
（高齢者のことだけじゃなく
障がい者のも）

・広島から一本松を見に来た人たちに
↳ 初めて高田の気づきポイント

・高田 = 合宿 - 高田市役所、体育館
オートキャンプ場

・高田 = "まち"
「まち」を作りたい！

・一本松にはドラマがいっぱいある
復興に関する感性
人間ドラマ つながる

・「良かった」と思ったものを取り戻したい
これが出たら、他の町と差えていけるかも
昔の"まち"を楽しめた → 昔の楽しかった"まち"を取り戻した。

・ソフト面 - 今ある物をどう活かすか。
観光資源はいっぱい
高田 → とれたての魚、牡蠣、海藻
資源は出ていないものを盛り上げる

・「見」を取り除く
コンセプト
= 観光を
↑
これをコンセプトにできる!?

・パソコン教室 … おじいちゃん達が
ネットと繋がるため
（孤独にならないように）
自立させても良いのでは？
みんなでまちづくりをしていく
ITが進んだ"まち"

・定住目的は市場の活性
気持ちが集まる場所
居心地が良い場所

・働き手がいない、人がいない
場所はある！仕事はある！
若者のやりがいない

2グループ

・前の"まち"に戻す
（自分たちの楽しい町）
↕
・外部から人を呼べる町

どうあれば？

・ガラッと変えるしかない。
でもその中に昔のソースを活かす。
・一本松は導入としては最適
・ネット商品も高田発のものを出す
・ITがもっと進むと新しいことも出る
（まだ、思い切ってこと）
・観光 < スポーツ
その方が交流人口を増やせる！

〈今日の感想〉

・どうなる場になるかわからず参加したが、
自分の考えをのべることができ、ボランに参考になった

・初めて全員集まったが、色いろなスペシャリストの
話が聞けたことが収穫・財産

・いろんな所属の人と話して新たな知れた
…でもそれだけじゃなく、何か考えを出せれば。

・交流を通して高田の知らない面、良さを再発見
これからの期待が高まった。ワクワク。

2グループ

キーワード
・コンパクトシティ
・スポーツ
・一本松
・IT化
・障がいのある人にもやさしい
・「行くべ！」と言える町

【第３グループ】

第１回　陸前高田市新しいまちづくり市民会議

開催日時：H25.10.3（木）

開催場所：陸前高田市庁舎４号棟第４会議室

【第３グループ】

（1）参加者

第３グループ参加者名簿

氏名	所属	備考
及川　満伸	陸前高田市消防団	
菅野　学	陸前高田市青年団協議会	
佐藤　彰	青年会議所	
細谷　一		
船砥　千幸	ボランティア受け入れ・ガイド	
三浦　まり江	陸前高田まちづくり協働センター	グループ進行
佐藤　大輔	いちのせき市民活動センター	グループ記録

（2）第１回の目標とゴール

【目　標】市民会議の進め方の共有と一人ひとりのまちづくりへの想いの共有

【ゴール】自分以外の参加者の想いを受け止める。

次回会議へ期待感が高まる。

（3）検討概要

○市民会議の進め方について共有

・　意見など特になし。

○参加者が描いている新しいまちづくりのイメージ

【産業・観光】

・　働く場所がない。働く場所をどうするのか。
・　震災前からの課題だが…働く場所が１次産業だとなお良い。
・　仕事がないと若い人は戻ってこない。地元から出ていき、高齢者ばかりになってしまう。若い人がいないとまちづくりはできない。働く場の確保を。
・　新しい産業を興すよりも、漁師等今ある産業（1 次産業）を次の世代へ繋ぎたい。まち全体として取り組みたい。
・　継ぎたいと思える仕事にしていく。そのためには、イメージアップが必要。若者がやりたくなるようなもの。カッコよくするなど。
・　農業は農協に頑張ってほしい。
・　特出した産業は無い。逆に、何でもあるということ。１人でも成功した人が出ればいい。
・　ボランティアと地域の人が話す機会が少ない。もっと話をしてほしい。それが人口交流に繋がり、若者の定住に繋がる。

- NPO 団体が 70 以上入っている。ガレキーホルダーNPO ではないけれど、ビジネスベースで支援をしている。NPO にももっとギラギラしてほしい。
- 交流人口を増やしたい。今がチャンス。若い人ががんばってほしい。
- 旅行会社とコラボレーションする。
- 防災を核にする。
- 高田の人は話をするとか、宣伝が下手。
- 防災の充実も必要。
- 地域の魅力を伝えていく。人・ごはん・自然など。
- 合宿誘致。過去には野活を誘致した経緯もある。人を呼ばないと。

【医療・福祉】

- 福祉は高田は甘いところもある。
- 高齢者のことを考えたまち。高齢者との共生。ノーマライゼーションという言葉の要らないまち。
- 精神的にきつくなる時期。心のケアが必要。
- 1 人暮らしの高齢者は孤独になっている人が見えてきた。仮設住宅では高齢者の見守りのため、隣近所が声掛けをするようにしている。神戸から来ているボランティアにも、発災 4～5 年が経つ「これからのケアが大事」と言われた。
- まち全体でケア、気づいた人が声をかけるように。
- 高田病院の再建。大きくなくてもいいから元の規模で。
- 病棟の数は震災以前から減少傾向、個人医院もない。住田の病院に行かなければならない人もいる。
- 病院がないと人口は減る。
- 病院がないところに病院を。横田とか、地区に診療所でもいいからあるといい。

【地域コミュニティ・防災】

- 丘に戻って暮らす→昔は津波が被る所には住んでいなかった。60 年の前、まだ生まれていない頃。そのまちに戻ってもいいのでは。安心して暮らせる。価値があるのではないか。都会のまねをしなくてもいい、昔のほんわかした雰囲気のまちに。
- 防災を重視したい。例えば、実証された避難路とか。
- 高齢者の中には元の家があった場所に帰りたいという人もいる。昔のコミュニティを大切にしたいと考えている。
- 当時は戦場のような現場だった。同じことが他のまちで繰り返さないように、若い人に防災を伝えたい。今見に来て、知ってほしい。
- 高齢者を守れる防災。
- 丘と丘をつなぐ橋があれば丘の上でもできる。防潮堤にもなる。
- 新しいまちになった時、七夕含むまつりをどうしようか。地域のコミュニティ・伝統で人が集まってまつりをしていたけれど、住民はバラバラになってしまった。残したいけれど…コミュニティを考えると、“おまつり”は必要。
- 場所を変えても残していく。試みとして、有名人を呼ぶとか。
- 気仙町に「七夕ロード」が出来ると計画に入っている。けんかの時にぶつけるために幅広い道路を求めたため。しがらみもあるかもしれないが、七夕ロードに高田の七夕もみんなで集合して、一緒にまつりをやればいい。
- まちづくりの前に、命を守る、財産を守る事。それができるまちづくりを。

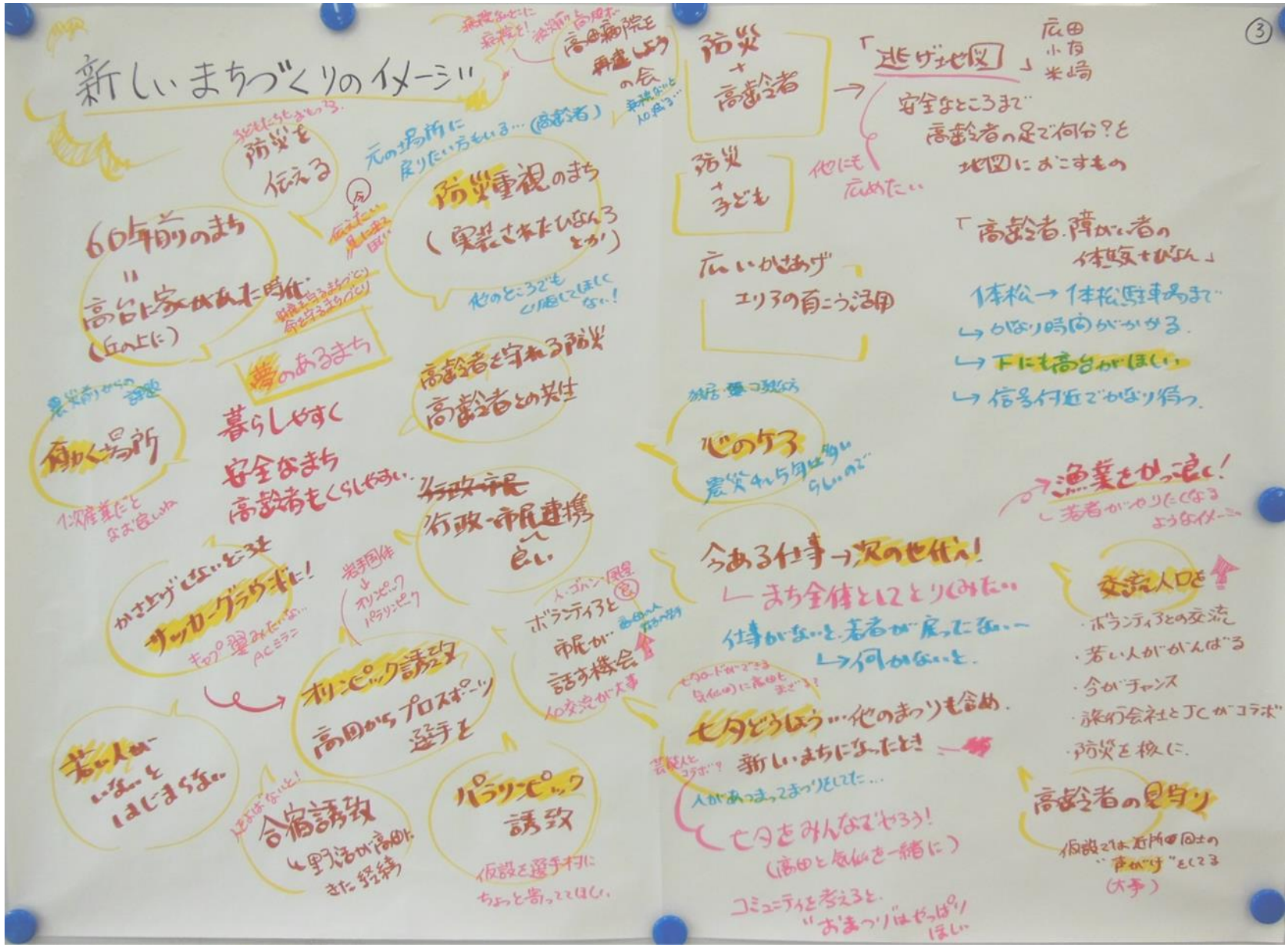
☆既に実施している防災の取組の共有

・ 防災と高齢者、防災と子どもに関する取り組みとして、「逃げ地図」に取り組んでいる。安全なところまでの避難経路、時間が分かる。米崎・広田・小友の中学生で実施したので、東から西の方へ広げていきたい。今回実施したものは文化祭で発表する。まだ始まったばかりだが、防災のヒントになるし、いろんなファクターを地図に落としていくことで、ハードの整備につながる。
・ 高齢者の疑似体験をやった。一本松から一本松駐車場まで。所要時間は 40 分。津波が来たら逃げれないことを実感した。高台以外にも、高いところが欲しい。信号が変わるのが早いので、渋滞が懸念される。

【子ども・教育】
・ 子どもが遊べる場所が少ない。娯楽施設はお金がかかるところばかり。子供が元気だと大人もやる気になる。
・ 防災を伝えたいと子ども達も思っている。
【その他】
・ 行政・市民の良い連携。
・ 当初支援してもらっても返せなかったけれど、今なら少しは返せる。
・ かさ上げしない低地の有効活用策として、広いサッカーグラウンドをつくろう。
・ 子供の遊び場にもなる。
・ 2020 年東京オリンピックの会場を誘致。パラリンピックもいい。仮設住宅を選手村にして…ちょっと寄って行ってほしい。
・ 高田からプロ選手が出るかもしれない。
・ その前に岩手国体の会場に。
・ 種をまいて芽が出たら、花が咲くまでちゃんとやらないと。

（4）検討経過

産業・観光	◎まちづくりには若い人がいないと。そのためにも働く場の確保を。 ◎今ある産業を次世代へ。まち全体として取り組みたい。若者がやりたくなるような仕事にしていくためのイメージアップが必要。 ◎特出した産業は無い。逆に、何でもあるということ。 ◎交流人口を増やしたい。今がチャンス。ボランティアと地域の人の交流を。そこから若者の定住に繋げたい。 ◎NPO にももっとギラギラしてほしい。 ◎地域の魅力（人・ごはん・自然が良い）を伝えていく。
医療・福祉	◎ノーマライゼーションと言う言葉の要らないまち。 ◎高齢者との共生。まち全体での見守り、声掛けが大事。 ◎心のケア。4～5 年後のこれからが特に。 ◎高田病院のもとの規模での再建。 ◎病院がないところに病院を。診療所でもいいからあるといい。
地域コミュニティ・防災	◎丘に家があった頃の安全なまち。 ◎防災重視のまち。 ◎一本松付近の低地にも高台が必要。高齢者など、逃げられない。 ◎高齢者を守れる防災。 ◎二度と繰り返さないために防災を伝えたい。今見に来て、知ってほしい。 ◎防災教育の取組を広げたい。（逃げ地図） ◎元の場所、コミュニティに戻りたい高齢者もいる。 ◎七夕を含む“おまつり”を残したい。コミュニティには必要。 ◎まちづくりの前に、命を守る、財産を守る事。それができるまちづくりを。
教育・子育て	◎子どもが遊べる場所が少ない。子供が元気だと大人もやる気になる。 ◎防災を伝えたいと子ども達も思っている。
その他	◎行政・市民の良い連携。 ◎低地の有効活用でサッカーグラウンドを作る。子供の遊び場にもなる。 ◎グラウンドにオリンピック・パラリンピック・岩手国体誘致。高田からプロ選手が出るかもしれない。 ◎種をまいて芽が出たら、花が咲くまでちゃんとやらないと。


新しいまちづくりのイメージ
③
防災を伝える
60年前のまち
高台に家があった時代
(丘の上に)
防災重視のまち
(実装されたひなんろとか)
他のところでも心廻してほしくない!
夢のあるまち
暮らしやすく
安全なまち
高齢者もくらしやすい…
高齢者を守れる防災
高齢者との共生
働く場所
1次産業だとなお良いね
行政・市民連携
良い
かさ上げしないところを
サッカーグラウンドに!
キャプ翼みたいな…
ACミラン
オリンピック誘致
高田からプロスポーツ選手を
若い人がいないとはじまらない
合宿誘致
里子活が高田にきた経緯
パラリンピック誘致
仮設を選手村にちょっと寄っててほしい
ボランティアと市民が話す機会
人・ゴハン・風景
高田へ人なるべき
人の交流が大事
防災+高齢者
「逃げ地図」
広田
小友
米崎
安全なところまで
高齢者の足で何分?と
地図におこすもの
他にも広めたい
防災+子ども
広いかさあげ
エリアの有こう活用
「高齢者.障がい者の体験+ひなん」
体松→体松駐車場まで
↳かなり時間がかかる.
↳下にも高台がほしい
↳信号付近でかなり待つ.
心のケア
農父れ5年は多いらしいので
今ある仕事→次の世代へ!
まち全体としてとりくみたい
仕事がないと.若者が戻ってない…
↳何かないと.
七夕どうしよう…他のまつりも含め.
新しいまちになったとき
人があつまってまつりをしてた…
七夕をみんなでやろう!
(高田と気仙を一緒に)
コミュニティを考えると.
"おまつり"はやっぱりほしい
漁業をかっこ良く!
若者がやりたくなるようなイメージ
交流人口を
・ボランティアとの交流
・若い人ががんばる
・今がチャンス
・旅行会社とJCがコラボ
・防災を核に.
高齢者の見守り
仮設では近所同士の"声がけ"をしてる
(大事)

【第４グループ】

第１回　陸前高田新しいまちづくり市民会議　意見

開催日時：H25.10.3（木）
開催場所：陸前高田市庁舎４号棟第４会議室

【第４グループ】

(1)４班　参加者名簿

氏名	所属	備考
松本　直美	陸前高田市観光物産協会	推薦
熊谷　克郎	陸前高田市社会福祉協議会	推薦
伊藤　雅人	P@CT	推薦
（氏名非公開）		
坂井　ふき子	教員（中学校）	一般
武蔵　和敏	会社員	一般
酒井　菜穂子	陸前高田まちづくり協働センター	グループ進行
鈴木　麻里子	陸前高田まちづくり協働センター	グループ記録

(2)第１回の目標とゴール

【目　標】市民会議の進め方の共有と一人ひとりのまちづくりへの想いの共有

【ゴール】自分以外の参加者の想いを受け止める。
次回会議へ期待感が高まる。

(3)検討概要

○市民会議の進め方や話し合いの方向性に関する意見交換

意見など特になし。

○新しいまちづくりのイメージの共有

【市民会議に参加するにあたっての想い】

・子どもたちが夢・魅力を感じられる、高田が好きでいられるまちづくりがしたい
・失ってからわかる故郷の良さを感じ、産業・福祉などの得意分野で関わっていきたい
・故郷のよさ・産業・強みを活かし、若者が夢を持ち、人を呼び込めるようなまちづくりがしたい
・市民が高田の良さを再確認し、子どもたちが帰ってくるまちづくりができれば
・バランスを取りながら、様々な高田の「売り」を、人を呼べる仕組み作りに
・企業誘致で、これからの子どもたちの職業が確保できるように
・失って「戻るもの」「戻らないもの」があるので、いたわりのあるまちづくりがしたい

≪具体的には？≫

◆高田の「良さ」「強み」「売り」「いいところ」
海の幸、山の幸、川の幸、お祭り、おふくろの味、共助の力（「義理結（ぎりす）」）、
子どもたちの挨拶、もてなす気持ち（後半は人のつながり）
⇒新しいまちになっても残したい。⇔　行政のサポートも必要

◆高田に有るものを活かして「いかに魅力的なまちにしていくか」と「付随する課題」
・トマト→干拓した場所で作っており、潮が入っているので味がいい。
・米崎りんご→おいしいと評判だが、生産量が少ない。
→生産量が少ない→単価が安い→後継者がいない→土地の売却→生産量減…
⇒ブランド化し単価を上げる。
⇒生活できる。「自分もやりたい！」を増やすことが必要。

・生活するには良い環境だが、定住しても給料が減り生活が成り立たない。
元々土地価格が高い上に震災後さらに上昇　(アパート代も高騰)している。
→入りたい企業や働く場がないことや、企業したくても予算が足りない(土地価格や家賃が高い)
ことは、戻りたい若者にとっての大きなハードル
⇒支えていく地域の仕組みが必要。

・魅力を上手に活かしながら、若者も高齢者も関わって行けるような仕組みは？
産業も人も高田に入るルートが決まっているため、新しいことを始めにくい。(漁業)
→(りんごについては)あまりルート的な縛りは無いが、問題はある。

◆仮設で新しくできているコミュニティの保持（集団移転など）
年配の方々にとって、まちづくりに時間がかかることは、色々な面でストレス
⇒希望を持たせたい。

◆震災関係で市内県外から関わった人（物資・ボランティアなど）への恩返し
１５万人以上。岩手県内で最も数が多い。
→北は北海道、南は沖縄、東はカリフォルニア、西はドイツまで。

◆また来たいと思うまち（リピーターを増やしたい）
地域の人と交流できると「また来たい」と思う。
⇒まちづくりの中に組み込んでいく必要あり
例：祭りの由来などを市民がしっかり理解して説明できる等。

◆交通、宿泊施設の充実
震災後のボランティアは食事・宿泊など自分たちで用意していたが、今後は「受け入れて」「送り出す」
ことも必要ではないか？
⇒第２の故郷　陸前高田　となるように。

◆震災後、人々のペースはそれぞれ違うが、「やんべにやっぺし！」という気持ち。

◆防災メモリアル公園
広い立地を活かした、大きなイベントは開けないか？
→人が「通る」だけではなく「滞在する」仕組み作り
⇒行政と民間のが一致したビジョンを持つ

◆人口減等
これから人口を増やすのは難しいが、交流人口を増やし活気あるまちづくりを！
企業は「被災した土地」へは工場を作らない、学校も教育にメリットが無ければ来ないという問題はあるが、市民が集うにぎわいが欲しい。

これら全部つなげて考えて同時進行が必要！　でもだからこそ大変。

【掘り下げたい事項】

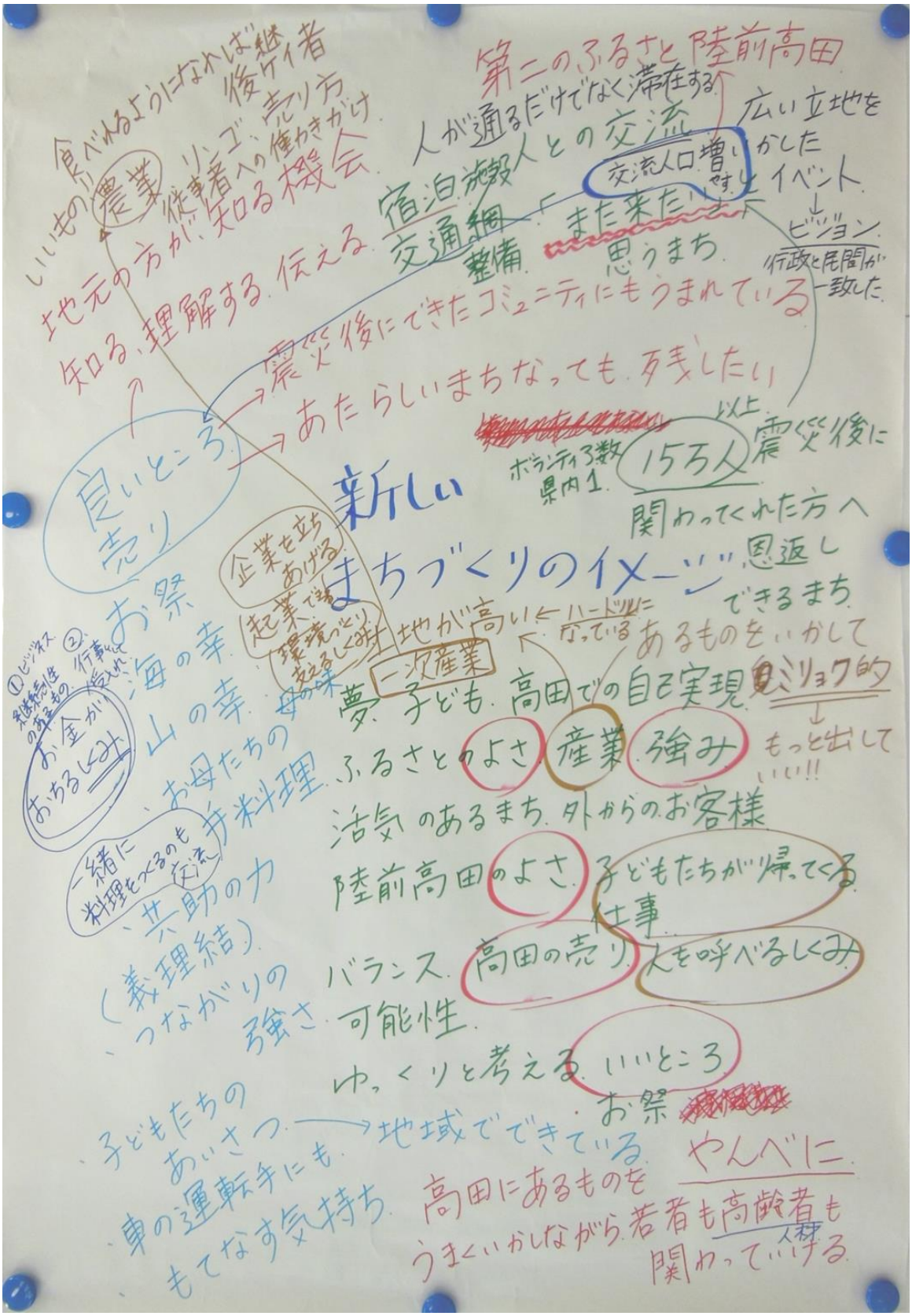
◆交流人口
今来ている人達を大切にした上で人口交流の拡大。そしてまた来てもらうという流れを作りたい
まちの良さ、地域の魅力を市民が知る。子供たちの教育にもつなげる。
「おもてなし」ではなく、「普段通り」が既に魅力。ただし、「ビジネス」と「行事的」な受け入れの考え方の区別も必要。

→仕組み作りが必要。
⇒市民と行政が同じビジョンを持った上で、市民力アップだけでなく行政の力も借りたい。

◆一次産業の活性化
米崎りんごやトマトのほか、たかたのゆめ等
⇒知ってもらいながら宣伝

(3) ワークショップ検討経過

内容	提案意見
産業・観光	・高田に今あるもののブランド化 ・第一次産業の活性化 ・震災後、関わってくれた人たちへの恩返し ・リピーターを増やす ・地域住民との交流 ・防災メモリアル公園でのイベント ・子どもたちの将来の職業の確保
地域コミュニティ・防災	・仮設で新しくできたコミュニティの保持
教育・子育て	・子どもたちが夢を持ち、魅力を感じられるまちづくり
その他	・市民(民間)と行政が同じビジョンを持つ ・交流人口の増加 ・陸前高田の「よさ」「強み」「売り」「良いところ」を活かす ・企業誘致 ・若者の起業を促す基盤作り/サポート ・市民が「陸前高田市」の再発見 ・人と人とのつながりの保持 ・宿泊施設の充実 ・交通の充実



＝議事録に関するお問い合わせはこちらまで＝

陸前高田まちづくり協働センター

〒029-2205
陸前高田市高田町字大隅 93-1　高田大隅つどいの丘商店街内
TEL：0192-47-4776　　FAX：0192-47-4778
E-mail：rtkyodo@gmail.com